

作成日：平成28年6月23日

学校法人 滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校
平成28年度 第4回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：大西 加恵

1. 開催日時 平成28年6月23日(木) 13:00～15:00

2. 開催場所 東京ベルエポック製菓調理専門学校 第2校舎3階 301教室

3. 参加者 学校関係者評価委員

(氏名)

君嶋 絵利香	卒業生代表 (モロゾフ株式会社)
小石川 典子	保護者代表 (パティシエ科2年 (小石川 大毅保護者))
与那覇 初美	保護者代表 (調理師科2年 (与那覇 珠里保護者))
森 章	高校関係者 (拓殖大学紅陵高等学校 学校長)
保戸田 武	近隣関係者 (江戸川区 仲町町会 副会長)
小沼 善裕	業界関係者 (サルトプラザ 東京 料飲部西洋料理調理課係長)
竹内 浩	業界関係者 (シェルトン・グランデ・トーキョー・ベイ・ホテル 料飲部調理 キャリアディレクター)

学校側参加者

井上 美津子	東京ベルエポック製菓調理専門学校	学校長
関口 崇之	同	事務局長
藤崎 隆行	同	学部長
永野 隆志	同	学部長
甲斐 浩典	同	FDC(※)
小川 昭久	学校法人 滋慶学園	

(※)FDC・・・ファカルティディベロップメントコーディネーター略

4. 会議の概要

- (1) 全委員の委嘱状交付
- (2) 平成27年度の自己評価(中項目)内容
- (3) 平成28年度の重点目標説明
- (4) 質疑応答
- (5) 評価シートの記入方法説明・記入
- (6) 次回開催予定時期の案内

(1)平成27年度の自己評価(中項目)内容

意見1【小石川様】(保護者代表)

- (小石川) ・卒業後の再就職支援について、卒業生が離職の報告という内容で学校へ行きづらかったり、当時担任だった先生がいない場合、誰に相談して良いのかが分からないなどで相談しづらくなっているのではないか。
- (小川) 学校としては同窓会の日以外でも学校に相談に来ている学生はいるので、今後も個別に相談する対応をしていく。

(小石川) また、ひとり暮らしセミナーを入学時には行っているが、卒業後にひとり暮らしになる学生に対しては実施していただけないのか。

また、卒業後の就職先での状況把握などの調査はされていないのか。

(小川) 離職調査はしているが、それぞれ卒業生の入職後の配属についてなどの調査はやっていない。在学中の現場実習の場合は、学校職員が巡回をさせていただいているが、卒業は本人から報告をいただくまでは、細かい所属までは確認できていないのが現状です。

(小石川) 防災マニュアルについては、震災時の本人と学校の確認はできているが保護者にも本人の安否確認ができるようになると良い。

(小川) 先程の防災システムは学校が学生の安否確認を取るためのシステムなので、確認した内容が保護者の方にも転送されるようにはなっていない。学校に問い合わせいただければお答えすることは可能です。

意見2【与那覇様】保護者代表

(与那覇) 質問等はなく、ベルエポックの対応には満足をしている。私自身も専門学校を卒業したが、本当に何にもない専門学校だった。娘を専門学校に入学させた時に病院などのサポートがあることなどにびっくりしていて、今後は卒業するにあたって就職という部分では親も一緒に先生に質問やお箸をできる時間をいただけたらお話お伺いしてもよろしいですか。

(藤崎) もちろんお時間を作りますのでご連絡ください。

意見3【小沼様】業界関係者

(小沼) 自分が行っていた専門学校はほったらかしが当たり前だったので、学校としてベルエポックは至れり尽くせりでよいのではないか。

意見4【竹内様】業界関係者

(竹内) 小沼シェフと同意見で学校としては至れり尽くせりでよいのではないかと
滋慶学園のSPECをしっかり使っていくことが大切

意見5【保戸田様】近隣関係者

(保戸田) 専門学校に対しての意識がちょっと違ったのかなと感じました。専門学校は腕を磨くだけの学校かなと思っていたが、先程「人間力」「専門力」の話が出た時に学校を卒業した時から養ってくれていることがとてもびっくりしました。

最後に社会貢献というところでは、ご縁なので仲町町会主催のお祭りなどにもご協力いただければと思います。ちなみに現在は姉妹校の東京医薬専門学校からは救急救命士科の学生さんが、仲町町会の消防団員として何名か入団していただいで活躍している。

(関口) 今後も様々な形で協力していきたいと思っています。

意見6【森様】高校関係者

(森) 今回参加して、高等学校の方が学ばなくてはいけないことが多かった。特に学生さんに対する細かな指導が行き届きすぎてしまっている。

本当であれば、小・中・高までの間で鍛えなおさなきゃいけないですが、送り出した生徒が大学や専門学校で卒業をせずに中退しまう学生もいる。

更には就職後の離職理由も8割・9割が「人間関係」を理由に辞めてしまう現状の中で、今後は高等学校も専門学校も学生を精神的に鍛えるための人間教育の必要性を感じる。

学生たちが出て行く社会のすべてが学校のように優しいだけではなく、厳しさも必要だからこそ、手厚くフォローする部分と厳しくフォローする部分の使い分けが必要だと感じる。

(小川) 離職の理由の第1位は人間関係。食分野の離職率が高いので人間関係を円滑にする能力と、メンタルタフネスを養うようなものを取り入れないといけない。

そのためには問題発見と問題解決の力を付けさせる必要がある。問題に直面した時に、一旦立ち止まって考える力やその必要性を学生たちにも気づかせないといけない。

そこ事については今後の教育の課題と認識しています。

(森) ここ近年、大学から専門学校への進学が増えている。そんななか、ダブルスクールなどを希望する学生もいるので、始めから専門学校に入学した方がよいのではないか。

(関口) 各委員の先生方からご意見いただいたものを反映させていただき、次年度以降のカリキュラムに活かしていきたいと思っている。

5. 学校関係者評価、並びに委員会での意見を踏まえた改善方策について

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落とし込んでいく。とりわけ、平成27年度の学校関係者評価においては卒業生の離職率低減へ向けた卒業後フォローの仕組みや対策を立案し、同窓会を通じて実施する。